Shining　ほいく

第53号　令和8年11月1日:編集・発行　保育運営課研修担当

『shining　ほいく』は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行する機関紙です。研修受講後に保育の質の向上に向け学んだ内容を実践に繋げていく中で『shining　ほいく』を活用していただけたら幸いです。

～「shining　ほいく」お役立ちポイント～

① 「この間の研修どんな研修だった？」と話すときに『参考になる。』
② 他園で研修をどのように活用しているか知りたい時に『ためになる。』
③ 保育を見直したい時になるほど！と『気づきがある。』

「園内研修の活性化～主体的参加と学びや気づきを促すために～」
令和8年5月8日　講師:東京立正短期大学　　准教授　鈴木健史

「往還型研修」 園内研修の活性化　～主体的学びや気づきを促すために～

保育の質や保育者の専門性向上のために実施する、参加・対話型園内研修は、職員が主体的に参加し、学びや気づきを促進するために必要な基礎的知識・スキルについて学びました。

みなみ保育園の取り組み

研修を受けてみなみ保育園では、今年度「絵本」をテーマに園内研修を進めています。
・身近な絵本に親しみ、絵本から広がるイメージや遊びを楽しむ
・親子で絵本に親しんでもらえるように「ふれあいブックコーナー」の活用方法を考え環境設定を工夫する
・職員も絵本を好きになり、保育に生かせる方法を学びあう
以上の3点を研修の目的とし、職員の好きな絵本、各クラスの好きな絵本の紹介から、キッズビューの掲示板を活用して意見を出し合い、ふれあいブックコーナーの活用方法をグループワーク等で検討しています。
今後は絵本から広がる遊びやイメージを広げ、保護者にもふれあいブックコーナーについてのアンケートを実施し、親子でも絵本に親しんでもらえるようにしていきたいと考えています。

「職員の好きな絵本」「クラスで子どもたちが好きな絵本」を事務所の扉の絵本型の色画用紙に付箋に貼って掲示しています。自分の知らない絵本もあり、どんな絵本か話して情報交換をしたり、今クラスで流行っている絵本を知る良い機会になりました。



「ふれあいブックコーナー」の利用数が減っている現状があり、今あるコーナーにプラスして事務所窓のスペースを活用して季節の絵本を紹介していく事にしました。
玄関を入ってすぐの場所にあり、登園、降園時に絵本を手に取りやすくなりました。
今後は、3歳室前のストックの絵本を入れている棚も絵本を貸し出しできるように整備していく予定です。
「ふれあいブックコーナー」を充実させて、親子で絵本に親しめる機会を広げていきたいと思います。



「園内研修の活性化～主体的参加と学びや気づきを促すために～」
令和8年5月8日　講師：東京立正短期大学　　准教授　鈴木健史

西前野保育園の取り組み

保育の質の向上や保育者の専門性向上のために実施する参加・対話型園内研修において、職員が主体的に参加し、学びや気づきを促進するために必要な基礎知識・スキルについて学びました。研修で学んだ園内研修の大切な視点や進め方を参考にしながら、園内研修を行った中で2つのテーマについてご紹介します。

テーマ①「絵本」の魅力を再発見しよう

「読み聞かせの疑問や不安が自信に変わるコツ」(注1)の研修参加者をミニ講師として、まずは研修報告をしてもらいました。絵本は「人生のリハーサルができる」「信頼関係が深まる」「想像力・語彙力が高まる」などの効果を聞き、各年齢に合った読み聞かせのコツも園全体で共有しました。その後、3～4人の小グループに別れ、①「読み聞かせの現状」②「絵本から広がる保育やについて」というテーマでグループトークをしました。お互いに「聴く」姿勢を大切にするなどの簡単な約束を伝え、経験年数やクラスも違う職員から様々なアイデアが出ていました。普段行っている絵本の読み聞かせを、今まで以上にしっかりとしたねらいを持って意識的に行うこと、環境を整えること、保護者へ発信をしていくことで、子どもの絵本への興味も深まり、保育も広がっていくことを確認し合いました。

(注1)「読み聞かせの疑問や不安が自信に変わるコツ」
（社)JAPAN絵本読み聞かせ協会　代表景山聖子（5月13日実施研修）







ふれiブックコーナー
好きな絵本を選んで借りています。



【4歳児クラス】
絵本コーナーを作りました。

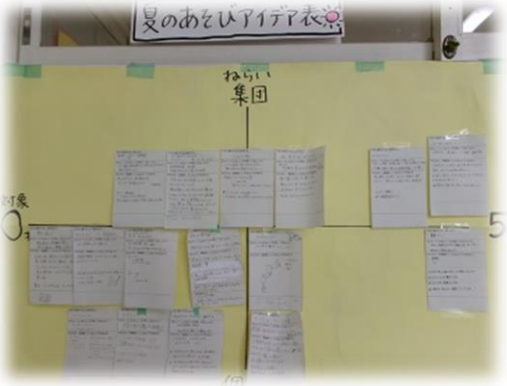
絵本に親しみやすい環境を見直したり、子どもたちの大好きな絵本から保育へとつなげたりしています。

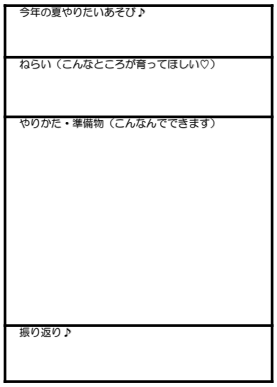


【2歳児クラス】
みんなが大好きなおばけの絵本から飛び出した。「おばけちゃん♡」自分の好きな名前を付けている子もいました。

テーマ②「夏の遊び」について

乳児クラス打合せ、幼児クラス打合せの中で「水遊びだけではない楽しい夏の遊び」について園内研修を行いました。事前に、今年の夏やってみたい遊びを一人ひとつ考えてもらい、用紙に簡単に（ねらい・実施方法・準備物を）記入をしてから参加してもらいました。遊びの内容としては今までに自分では実施したことのないもの！というチャレンジ的な視点も取り入れました。今回は経験年数や年齢が近いメンバーの３人グループに分かれ、まずはそれぞれに遊びの紹介をしました。発言に対しては「それはいいね！」と意識的に相槌を打ったり反応することで、お互いに「聴く」姿勢を大切にすることを最初に伝えました。和やかな雰囲気の中で、最終的にはお互いにアドバイスももらい、実施する上でのイメージを固められたようでした。それぞれのグループで出してもらった夏の遊びは、「夏の遊びアイデア表」として掲示し、お互いの保育に＋αで生かしてもらえるよう情報共有しました。







実践した「夏の遊び」の様子は、クラスだより、園だよりで配信し、保護者の方にも共有しました。各クラスの夏の遊びの様子の一部をご紹介します。

【0歳児クラス】感触遊び「寒天遊び」
寒天入りの色水を凍らせて袋に入れています。



【3歳児クラス】「色水氷おえかき」
色水に棒をつけて凍らせ、画用紙に色付けしました。



【1歳児クラス】「手作りの金魚すくい」
ポイで金魚をすくう動作がスプーンを使う動きにつながっています。



【5歳児クラス】「夏祭り♪」
企画・準備から当日のお店の運営まで、子どもたちが協力して作りあげました！



「0歳からの子どもの権利～赤ちゃんの意見表明権って？」
令和8年6月4日　講師：十文字学園女子大学　名誉教授　上垣内伸子

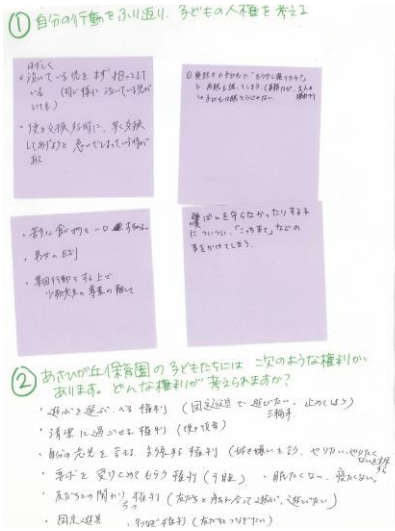
あさひが丘保育園の取り組み

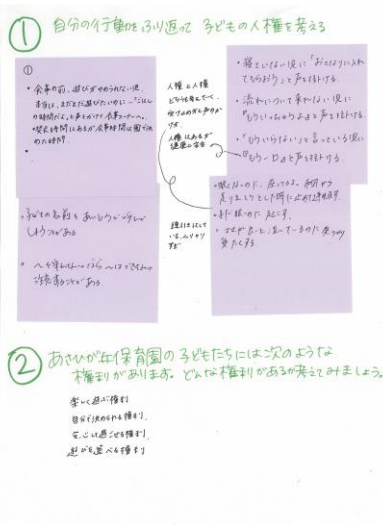
＜研修の内容から・・＞
“赤ちゃんもからだ全体で訴えている。言いたいこと聞いてほしいことはいっぱいあるはず“
“子どもの権利を尊重する保育を目指して、保育士はアドボケータとして子どもの代弁をする存在に！”



研修の報告を受け、子どもの権利についてグループトークを行いました。子どもの権利条約を読み、「自分の行動を振り返って子どもの権利を考える」というテーマでの意見交換です。会計年度任用職員も加わり、「子どもがいらないと言っているのに、もう一口食べたら？と声を掛けてしまう」「同時に2人の子どもが泣いてしまった時、いつも激しく泣く子を先に抱っこしてしまう」「出ないと言っているのに、1回トイレに行ってみようよと声を掛けてしまう」など、たくさんの振り返りが出されました。

＜付箋を使ったグループトークの一部＞





次に保育園の子どもたちにはどんな権利があると思うか、どんな権利を大切にしたいかを具体的に考えてみました。「やりたいことをやりたいと自由に言える権利」「自分のペースで着替える権利」など、子どもの主体性を大切にしたいと思う保育士の気持ちが表れた意見が出ていました。
また、これらを大切にすることは、不適切な保育を防止してくれるのではないかとの気づきがありました。

職員から出た意見をまとめ、“あさひっこの権利”として、5つのステッカーを作りました。
① やりたいあそびをする権利
② きもちをきいてもらう権利
③ じぶんのペースですごす権利
④ すきなともだちとあそぶ権利
⑤ あんしんしてあまえる権利
の5つです。
職員が描いたやさしいイラスト入りのステッカーは事務所や更衣室に貼ってあります。
時折自分の保育を振り返り、子どもの気持ちを大切にする保育を心掛けています。

＜“あさひっこの権利”ステッカー＞



「保育における文化的多様性」
令和8年7月10日　講師：十文字学園女子大学　教授　向井美穂

高島平つくし保育園

保育における文化的多様性とは？

現在、全国の市区町村の保育所等の外国籍等の子どもは60．2%在籍していると言われており（子ども家庭庁調査）、板橋区の保育園でも外国籍の子どもは増えています。その中で、国籍や価値観、生活習慣で子どもをみるのではなく個別のニーズを把握すること、また“外国人が日本の文化に馴染む”のではなく、保育者や日本の子どもたちもまた異なる文化と出会うことで、お互いの良さを知り尊重し合いながら一緒に生活していくことが大切です。

高島平つくし保育園は、10か国18名の多国籍の子ども達が在籍しています。
前期の保護者会で、異文化交流をねらいとし、各国の挨拶や動物の鳴き声を伝え合いました。各国の挨拶は皆で声を出し挨拶してみると意外に難しく、動物の鳴き声は同じ動物なのにまったく違う鳴き声に驚き、いろいろな発見がありました。その後、フルーツバスケットをすると、『初めてやった。すごく楽しい』と外国籍の保護者の方は、大喜びでした♪日本の保護者からも他国籍の保護者からも、前向きな感想を頂きました。

【感想】
- ✿各国の挨拶も新たな知識として楽しかったです。
- ✿色々な国のお子さんがいるのは子どもにとってもいいなと思っていますが、親はなかなか交流する機会がないので、挨拶を紹介してもらう企画はとてもよかったです。
- ✿様々な国の言葉で挨拶して子ども達の多様性とお互いをもっと知ることができ、保護者はより安心することができます。

色々な国の挨拶と動物の鳴き声♪





～つくし保育園に在籍する10か国の“こんにちは”～

中国：ニーハオ　　モンゴル：センベーノ　　内モンゴル：バイヌーンセン　　ベトナム：シンチャオ
ミャンマー：ミンガラバー　　ウズベキスタン・バングラディッシュ：アッサラーム・アライクム
スリランカ：アーユボーワン　　ネパール：ナマステ　　パキスタン：アッサラーム・ウ・アレイクム



研修では、親との連携の話をされていました。
多国籍の保護者の方により分かりやすく発信するための視点
①可視化:日本語が伝わりにくい保護者には絵カードや掲示をする事で理解がしやすい。
②やさしい日本語:情報をユニバーサルデザイン化。写真と短い言葉で「確実」に伝える。
③相手の文化の尊重:お互いの文化を知ることでパートナーシップを築く。



つくし保育園の取り組み



保護者会で看護師から健康面において話をする際、絵カードを使いながら説明をしました。文化の違いにより健康についての考え方の違いがありましたが、絵カードを使用することで、保護者の方にも理解しやすく、うんうんと相槌をうちながら聞いてくれていました。

～ 園内研修 ～

多国籍の保護者の方により分かりやすく発信するために、研修で学んだ3つの視点を踏まえて、連携を図る方法をグループに分かれて意見を出し合いました。

・他国籍の方にもわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか
→良いこと悪いことを〇×で知らせる
→絵カードを使う

・ポケトークを使用すると時差ができるので、スムーズにやりとりをするにはどうするか
→職員自身も英語など外国語を学び保護者とやりとりをする

・保護者と会話がしやすくなるにはどうするか
→製作物や掲示を充実させ、保護者と一緒に子どもの成長を喜び合う

現在、つくし保育園では、日本を含めた各国のおすすめ料理のアンケートをとり、掲示をしています。廊下で立ち止まり親子や保護者同士で会話をする姿がみられています。





多国籍の保護者とのより良いコミュニケーションを図るために、これらの取り組みを今後も継続させていきたいと思います。また、子どもたちも異文化に触れる機会を作っていきたいです。

「子どもの成長を促すおもちゃの選び方と遊び方」
令和8年9月2日　講師：おもちゃコンサルタント　野呂知恵

坂下三丁目保育園の取り組み

【キーワード】遊び×おもちゃ×環境×保育者

子どもの遊びを観察し、「今何を経験しているのか」「何を加えると遊びが広がるのか」を考えました。子どもの発達や興味に合わせて、おもちゃや遊びの環境を工夫していますが、今回おもちゃの種類や環境を見直し、研修で学んだことを実践することで、子どもが自分で遊び方を考えたり、友だちの関わりを楽しんだりしながら、遊びが広がる様子がみられました。



リトミックスカーフ

【大切にしたいこと】子どもは何をしている？
おもちゃ**「リトミックスカーフ」**
おもちゃをみる5つの視点
①　感覚：布の柔らかさ　ふわふわ　さらさら
②　身体・運動：握る　振る　投げる　拾う
③　認知：投げると落ちてくるなど動きや因果関係　速い・遅い
④　ことば・コミュニケーション：友だちの模倣　イメージの言語化
⑤　社会性・情緒：「雨みたい」などイメージ　他者とのやりとり
→同じおもちゃでも、子どもの遊び方によって生まれる経験は変わる。

【「困った行動」を見直す】この子どもは何をしようとしている？
〇子どもの姿
　感触を楽しみ、「台風！」とリトミックスカーフを体全体を使って大きく回す。模倣する子どももいる。
　台風→雨→水からプールへとイメージを広げていく。
　プールのイメージを友だちと共有し、リトミックスカーフを床に敷き、プールの中に入ろうとするが転倒してしまう。
〇安全を確保したうえで、その経験を安全にできる環境は作れないか。
→水遊びで使用していたすべり止めマットを活用する。
　リトミックスカーフを並べおうちごっこへ発展する。





【おもちゃを「つなぐ」】
一つのおもちゃ＋身近なもの→遊びが変わる・広がる
〇最初のおもちゃ「リトミックスカーフ」
「何があったら広がる？」
→身近なふわふわとした柔らかい素材の「デコレーションボール」を追加する。
遊びはどう変わった？
→プールごっこからピンク色を集める遊びになる。→友だちとデコレーションボールを人に見立ててのままごとごっこが始まる。

今回の研修を通して、月齢や発達の違いによって、同じおもちゃでも遊び方や楽しみ方が変化することを学びました。また、友だちとイメージを共有しながら遊ぶことで、一人での遊びから友だちとの遊びへと発展していく姿が見られました。子どもの「今、何を楽しんでいるのか」「何を経験しているのか」を遊びからさらに広がるような環境構成を意識していきたいです。

研修感想

「保育現場における文化的多様性」

・内容が文化的多様性で外国籍の子どもや保護者の話なのかと思い研修に臨みましたが、国籍関係なくどの国の子ども、保護者でも共通する部分は多いのではないかと思いながら、話を聞きました。気になる子がいると、つい、この子をなんとかしようと思ってしまいますが、個だけでなく集団をとらえることを忘れないようにしていきたいと思いました。保育の中では、その子だけをみていても、判断できず、まわりを見る視点が大事だということでした。本当に保育と言うのは関係性の連続だと思います。外国籍（発達上気になる子もそうですが）ということに捕らわれ過ぎないように気をつけたいです。
保護者との連携の話の中で、保護者を「その子の子育ての専門家」として頼るという視点は、信頼関係を築く上でどの保護者とも大事なことだと思いました。「汚れてもいい服」「動きやすい靴」など、今まで使ってきた言葉が誤解されやすい、伝わっていない可能性があるということでした。今一度、当たり前に使ってきた言葉を考えていかなければと思いました。「日本のルール」ではなく、「子どもの育ち」の視点を忘れずに、「なぜ〇〇なのか」発達の意義を伝えていきたいです。
・多様性を求められる今の保育で、『こうあるべき』という固定概念をなくし、新しい価値観を一緒に作っていくという視点を大事にしていかなくてはならないことを学びました。つい自分視点の価値観で判断してしまいがちですが、目の前の子どもを一人の子どもとして捉え、色々な文化を学びながら保育を進めていきたいと感じました。
ドキュメンテーションは積極的に取り入れていきたいと思いました。わが子が夢中になっている姿を見ることで、安心・信頼できるという気持ちにつながり、それは多国籍の保護者だけではなく、全ての保護者に通じると研修と通して学んだので、自分の保育に取り入れて行きたいと思います。

「0歳からの子どもの権利～赤ちゃんの意見表明権って？～

・0歳の赤ちゃんでも、全身で感じ発信している、子どもは自ら周りに働きかけて育とうとするという存在なのだと改めて確認できました。0歳のイメージを書き出していくと、研修前後に書き出したイメージに変化があり、研修者同士でそれを言葉にして確認し合えたこと、人権を尊重し、主体性が発揮される保育のためにどうしていったら良いか、保育者のあり方を考え合えたことがとても良かったです。
・こども基本法の理念を学び、改めて子どもの権利や意思表明権の重要性を感じました。でもそれは、それだけ子どもたちの権利や意思表明がないがしろにされてしまうという現実があったからだとも思いました。保護者の次に子どもたちに近い場所で、私たち保育士がいかに切れ間なく子どもの育ちを支えていくか。それは「サポート」ではなく、一人ひとりの持っている力をより高めていくための「エンパワー」だという言葉が心に残りました。それぞれの子どもたちが持つ良さや個性を
尊重してその代弁者として発信をし、安心感を基盤に自信を持って様々なことに挑戦できるようにしていきたいと思いました。

「子どもの成長を促すおもちゃの選び方と遊び方」

・子どもが遊んでいる姿をよく見ることで、その子どもが発見したことに気付き、今やりたい遊びを提供できることにつながるということを改めて感じました。そして子ども達の普段の姿も見方を変えることで、発達の視点を捉えられたり、遊びを広げる環境につなげられたりすることを学び、子ども達をよく見ることのスキルをさらにあげていきたいと思いました。
・いつも遊びがマンネリ化して飽きてしまうことが悩みでした。講義の中で、子どもが遊びに飽きてしまうのは、その発達段階に達している証拠なので、もう少し上の発達へと導いてあげる遊びを提供すると良いことを学びました。そのためには、子どもの遊んでいる姿を見て、遊びを広げるために何をプラスしてあげればいいのかを常に考えていきたいと思います。
・登ったり投げたり落としたり、一見危険だったりいけないことだと止めてしまいがちですが、そうではなくてその子はその動きで何をしようとしているのか？何を思ってその動きをしているのか？という側面から考えて子どものやりたいことや育てたい機能を伸ばす代替案を出してあげることがいいという視点が新鮮でした。私もつい子どもの行動を叱ったり止めてしまいがちであったと反省しました。